

Index

- 1-2 知っていますか?
血液で調べるアレルギー検査「Viewアレルギー39」
- 3 生活習慣病の評価に加えて、眼科疾患の早期発見へ
- 4 早期発見で変わるがん生存率
～特に注意したい膵臓がんの検診～
- 5 インフォメーション
 - ・2025年度複十字シール運動結果報告
 - ・結核予防全国大会決議文 陳情＜報告＞
 - ・大阪複十字病院 院長就任のごあいさつ

Osaka Anti-Tuberculosis Association





知っていますか？



血液で調べるアレルギー検査「Viewアレルギー39」

花粉症、食物アレルギー、ハウスダストなど、私たちの身の回りにはさまざまなアレルギーの原因があります。くしゃみや鼻水、皮膚のかゆみなどの症状が続いているものの、「何が原因なのか分からない」と感じている方も多いのではないのでしょうか。

アレルギーの原因となる物質は非常に多く、生活環境や食生活によっても変化します。

例えば、春にはスギやヒノキ花粉、秋にはブタクサやヨモギなどの花粉が原因になることがあります。また、室内ではダニやハウスダスト、ペットの毛などが原因となる場合もあります。さらに、卵や牛乳、小麦などの食品が体に合わないことで症状が出ることもあります。

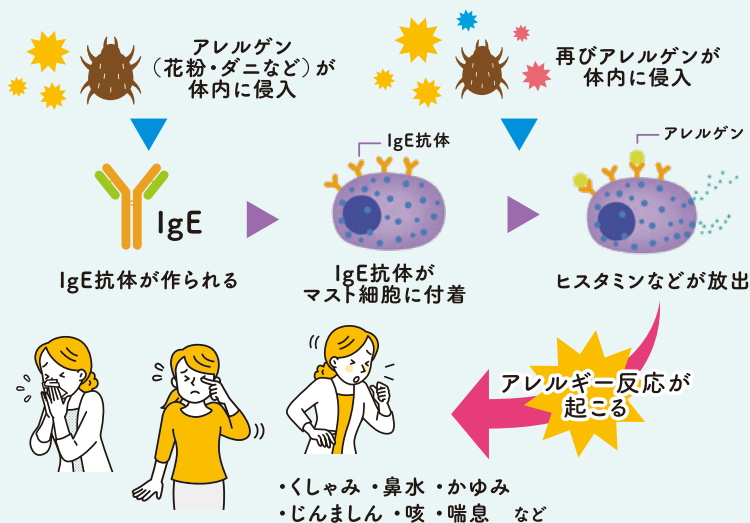
こうしたさまざまな原因を調べる方法のひとつが、「Viewアレルギー39」という血液検査です。

★アレルギーはなぜ起こる？

私たちの身体には、細菌やウイルスなどの異物から身体を守るための「免疫」という仕組みがあります。しかし、この免疫が本来は害のない物質に対して過剰に反応してしまう状態を“アレルギー反応”といいます。アレルギー反応が起こるとき、体内では「IgE抗体」と呼ばれる抗体が作られます。IgE抗体は皮膚や粘膜などに存在するマスト細胞（肥満細胞）と呼ばれる免疫細胞の表面に結びつきます。そこに再び同じアレルギー物質が体内に入ると、マスト細胞が刺激され、ヒスタミンなどの物質が放出されます。その結果、くしゃみ、鼻水、かゆみ、皮膚症状などのアレルギー症状が現れます。

このIgE抗体の量を測定することで、身体がどのアレルギー物質に反応している可能性があるのかを調べることができます。

●アレルギーの仕組み



★アレルギーセルフチェック

セルフチェックシート

- ☐ くしゃみ・鼻水・鼻づまりがよく起こる
- ☐ 目のかゆみや涙が出ることもある
- ☐ 皮膚のかゆみやじんましんが出ることもある
- ☐ 咳が長く続いたり、ぜんそくのような症状がある
- ☐ 季節（春や秋など）になると症状が強くなる
- ☐ 掃除や布団の上げ下ろしで症状が出ることもある
- ☐ ペットと接触すると症状が出ることもある
- ☐ 家族に花粉症・ぜんそく・アトピー体質の人がいる

（日本アレルギー学会の一般向け資料を参考に作成）

左の項目の中で、現在の症状やこれまでの経験として当てはまるものがあるかチェックしてみましょう。

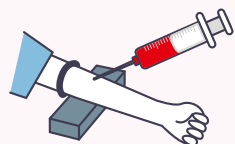
チェックの数が少ない場合でも、気になる症状が続いている場合は体が何らかの物質に反応している可能性があります。一方で、複数の項目に当てはまる場合には、アレルギー体質の可能性も考えられます。

- 0～1個・・・アレルギーの可能性は高くない
- 2～3個・・・アレルギー体質の可能性はある
- 4個以上・・・アレルギーの可能性はある



★「Viewアレルギー39」とは

1回の採血で39種類のアレルゲンに対する反応を調べることができる検査で、日本で多くみられるアレルギー原因物質を幅広く確認することができます。この検査は、特定の症状の原因を探るきっかけとして利用されることが多く、アレルギーの可能性を広く確認するスクリーニング検査としても活用されています。



Viewアレルギー39の特徴

1 1回の採血で39種類を検査

通常のアレルギー検査は項目ごとに測定しますが、Viewアレルギー39では代表的なアレルギーをまとめて測定できます。

2 環境アレルギーと食物アレルギーを同時に確認

花粉、ダニ、動物、食物など、日常生活で原因となりやすいアレルギーを幅広く確認できます。

3 原因が分からない症状の手がかりに

鼻炎、皮膚症状、咳など、原因がはっきりしない場合のスクリーニング検査として利用されています。

★Viewアレルギー39で調べられる主なアレルゲン

©Thermo Fisher Scientific

吸入系・その他					
室内塵	ヤケヒョウヒダニ ハウスダスト1		イネ科 植 物	カモガヤ オオアワガエリ	
動 物	ネコ皮膚 イヌ皮膚		雑 草	ブタクサ ヨモギ	
昆 虫	ガ ゴキブリ		真 菌	アルテルナリア (ススカビ) アスペルギルス (コウジカビ) カンジダ、マラセチア (菌)	
樹 木	スギ、ヒノキ ハンノキ (属) シラカンバ (属)		職業性	ラテックス	

食物系					
卵	卵白 オボムコイド		豆 類	大豆 ピーナッツ	
牛 乳	ミルク		肉 類	鶏肉 牛肉 豚肉	
穀 類	小麦 ソバ 米		魚 類	マグロ サケ サバ	
甲殻類	エビ カニ		果 物	キウイ リンゴ バナナ	
			その他	ゴマ	

青文字はアレルギー物質を含む食品の表示義務・推奨食品に関連する項目です

環境アレルゲンとして、ダニやハウスダストがあります。ハウスダストやダニは、アレルギー性鼻炎や気管支ぜんそくの原因としてよく知られています。特にダニは布団やカーペットなどに多く存在するため、室内環境の影響を受けやすいアレルゲンです。

日本ではスギやヒノキ花粉による花粉症が多くみられますが、その他にもカモガヤなどのイネ科花粉、ブタクサやヨモギなどの雑草花粉など、多くの植物がアレルゲンとなります。また、動物、昆虫、カビ、ペットの皮膚なども原因となることがあります。

食物アレルギーは、特定の食べ物を摂取したときに体の免疫が反応して起こります。原因となる食品としては、卵、牛乳、小麦、大豆、ピーナッツ、エビ、カニなどがよく知られています。また、果物や魚などが原因となることもあります。

症状は、口や皮膚のかゆみ、じんましん、腹痛、下痢などさまざまで、人によって反応する食品や症状の現れ方は異なります。

Viewアレルギー39では、これらのアレルゲンについて血液検査で調べることができ、日常生活や食生活と症状との関係を把握する参考になります。

★健診でアレルギー検査を行うメリットとは？

アレルギーは命に関わる病気ではない場合も多いものの、鼻炎や皮膚症状などが続くことで生活の質(QOL)に大きな影響を与えることがあります。

例えば、くしゃみや鼻水によって仕事や勉強に集中しにくくなったり、皮膚のかゆみで睡眠が妨げられたりすることもあります。また、症状があっても原因が分からないまま過ごしている方も少なくありません。

健診の機会にアレルギー検査を行うことで、自分の体がどのような物質に反応しやすいのかを知るきっかけになります。そして、原因となる可能性のあるアレルゲンが分かることで、「花粉の多い時期の対策」「室内環境の見直し(ダニやハウスダスト対策など)」「食生活の工夫」など、日常生活の中でできる予防や対策につながる可能性があります。さらに、自分の体質を知っておくことは、症状が出たときに原因を考える手がかりにもなります。アレルギー検査は、健康管理の一つとして身体の状態を知るための参考になる検査といえます。



View アレルギー 検査報告書					
患者名	年齢	性別	検査日時	検査場所	検査結果
今回検査したアレルゲン名	アレルゲンに対するIgE抗体量 クラス/Index値	クラス	Index値	クラス2以上が陽性	クラス(判定域)
ハウスダスト1	3	4.26	*****	陽性	クラス2以上
ヤケヒョウヒダニ	3	4.69	*****	陽性	クラス2以上
スギ	4	9.65	*****	陽性	クラス2以上
ヒノキ	2	1.21	*****	陽性	クラス2以上
ハンノキ (属)	0	0.27未満	*	陰性	クラス0
シラカンバ (属)	0	0.27未満	*	陰性	クラス0
カモガヤ	0	0.27未満	*	陰性	クラス0
オオアワガエリ	0	0.27未満	*	陰性	クラス0
ブタクサ	2	1.01	*****	陽性	クラス2以上
ヨモギ	1	0.40	*****	陽性	クラス2以上
アルテルナリア	0	0.27未満	*	陰性	クラス0
アスペルギルス	0	0.27未満	*	陰性	クラス0
カンジダ	1	0.27	**	陽性	クラス2以上
マラセチア (属)	1	0.25	**	陽性	クラス2以上

★検査結果の見方

検査結果は、血液中のIgE抗体の量を「Index値」としてお返しします。このIndex値をもとに、結果はクラス0~クラス6の7段階に分類されます。一般的には、クラス0は「陰性」、クラス1は「疑陽性」、クラス2以上は「陽性」と判定されます。クラスの数値が高いほど、そのアレルゲンに対するIgE抗体の量が多いことを示します。ただし、血液検査の結果だけでアレルギーの診断が確定するわけではありません。検査で陽性と判定されても実際には症状が出ない場合や、逆に検査が陰性でも症状がみられる場合もあります。そのため、検査結果は症状の有無や生活環境、季節との関係などと合わせて総合的に判断することが大切です。気になる症状がある場合は、医療機関でご相談のうえ、必要に応じて専門医の診察を受けることをおすすめします。

Viewアレルギー39検査
(※人間ドックオプション検査)

19,800円(税込)

- 花粉症の原因を知りたい
- 食物アレルギーが気になる
- 鼻炎や皮膚症状が続いている
- 家族にアレルギー体質がある



健診時
アレルギー検査を受ける方は、
受けてみてはいかがでしょうか？

眼底検査の「より精度の高い評価」を目指して！ 生活習慣病の評価に加えて、眼科疾患の早期発見へ

変更の背景 これまでの眼底検査は、高血圧・動脈硬化・糖尿病性網膜症など、生活習慣病による血管の変化を確認することを主な目的として実施されてきました。眼底は体の中で唯一、血管を直接観察できる場所であり、循環器系の健診の一部として重要な役割を担ってきました。一方で、緑内障や加齢黄斑変性などの眼科疾患については、従来の方法では十分な早期発見につながりにくいという課題が指摘されています。こうした背景を踏まえ、当施設では日本人間ドック・予防医療学会の「眼底健診判定マニュアル」に基づき、撮影方法と判定基準の見直しを行いました。



主な変更点

1. 撮影方法の統一

両眼撮影を行うことで、左右の違いを確認でき、異常の見逃しを防ぐことにつながります。そのため、より精度の高い評価のためには両眼撮影が重要とされています。

● 変更前

片眼または
両眼撮影

● 変更後

両眼撮影を
標準化

2. 判定基準の見直し

生活習慣病による血管変化の評価に加え、眼科疾患の状態をより適切に評価できる基準へと見直します。

高血圧・動脈硬化による血管変化の評価

● 変更前

Scheie分類
Keith-Wagener分類

● 変更後

Wong-Mitchell
分類

Wong-Mitchell分類を導入することで、眼底の血管変化を全身の血管状態や循環器疾患のリスクと関連づけて評価できるようになります。

糖尿病性網膜症の評価

● 変更前

糖尿病判定

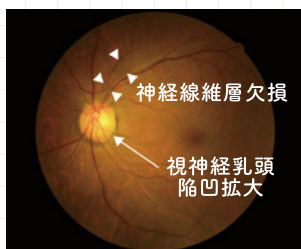
● 変更後

改変Davis
分類

改変Davis分類を導入することで、糖尿病による網膜の変化を進行の程度に応じて段階的に評価できるようになります。

眼科疾患の評価

眼科専門医による判定を行うことで、緑内障や黄斑円孔・網膜裂孔などの眼疾患についても、より専門的な視点から評価できるようになります。これらの疾患は初期には自覚症状が少なく、気づかないまま進行することがあるため、眼底検査により視神経や黄斑部の状態を確認し、視力低下や視野障害につながる可能性のある変化を早期に見つけることを目的としています。



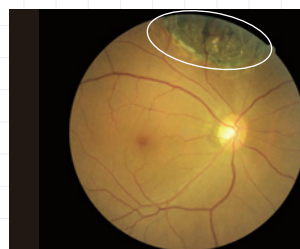
緑内障

視神経乳頭の陥凹拡大(くぼみが広がる変化)や神経線維層欠損がみられます



網膜出血・血管閉塞症

網膜血管からの出血や血流異常があり、点状や斑状出血、血管拡張や蛇行などがみられます



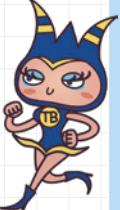
右眼：網膜裂孔(疑い)

右眼に網膜裂孔(疑い)を認め、左眼は明らかな異常はみられません。網膜裂孔とは、網膜に裂け目が生じる状態で、進行すると網膜剥離につながる可能性があります。左右眼で所見が異なる場合があるため、両眼を撮影することで、片眼のみの異常も見逃さずに確認することが可能となります



左眼：正常

このほかにも
さまざまな眼の異常を
見つけることができます



眼底検査が果たす役割

！眼底検査を受けましょう！



今回の変更により、これまで行ってきた生活習慣病の評価に加え、緑内障や網膜疾患などの眼科疾患の早期発見にも、より積極的に対応できるようになります。

眼底検査は、視力低下などの自覚症状が現れる前の段階で異常が見つかる可能性のある検査です。特に緑内障や糖尿病性網膜症などは、初期には自覚症状がほとんどないまま進行することが多く、気づいたときには視機能に影響が出ている場合もあります。

また、眼底の血管は全身の血管の状態を反映するため、高血圧や動脈硬化などの生活習慣病の変化を早期に捉える手がかりにもなります。

健診で定期的に眼底の状態を確認することは、目の病気だけでなく全身の健康状態を把握することにもつながり、将来の視機能を守るうえで重要です。自覚症状がない段階で体の変化に気づくためにも、健診の機会を活用し、継続的にチェックしていくことが大切です。

早期発見で変わるがん生存率～特に注意したい膵臓がんの検診～

厚生労働省は2026年1月、「2016年全国がん登録生存率報告」を初めて公表しました。このデータは、日本全国のがん患者さんを対象とした客観的な統計で、がんと診断された人の5年生存率（診断後5年間生存している割合）を部位別に示しています。「がん＝重い病気」という印象を持つ方も多いかもしれませんが、この報告からは、早期に発見されたがんは高い生存率が期待できるものが多いことが改めて明らかになりました。

◆がん部位ごとの5年生存率（早期発見の重要性）

がんの種類によって生存率には大きな差があります。前立腺がん:92.1%、乳がん:88.0%と非常に高い生存率を示しており、大腸がん:67.8%、胃がん:64.0%なども比較的高い生存率となっています。これらのがんは、健診などで早期に発見されるケースが多いことが特徴です。一方で、肺がん:37.7%、肝臓がん:33.4%、膵臓がん:11.8%などは、診断された時点ですでに進行している場合が多く、生存率が低くなっています。この差を生む**大きな要因は「発見のタイミング」**です。例えば胃がんや大腸がんは、早期の段階で診断された場合、生存率が9割近くまで上昇することが知られています。つまり、症状が出てから受診するのではなく、症状がない段階で健診により発見することが、命を守る大きな鍵となります。



◆特に警戒すべき「サイレントキラー」膵臓がん

先に触れたように、**膵臓がんは全国平均で5年生存率11.8%**と、主要ながんの中でも最も低い生存率となっています。膵臓は体の奥に位置する臓器であり、初期の段階では自覚症状がほとんどありません。そのため、気づかいうちに病気が進行してしまうことが多く、こうした特徴から膵臓がんは「サイレントキラー（静かな殺し屋）」と呼ばれています。実際に、膵臓がんは発見された時点で転移が進んでいるケースが8割以上とされ、治療が難しくなることも少なくありません。そのため、膵臓がんでは特に健診による早期のリスク評価と継続的なチェックが重要とされています。

◆当会で推奨している膵臓がん関連検査

当会では、膵臓がんの早期発見の可能性を高めるため、次の検査を組み合わせた評価を推奨しています。

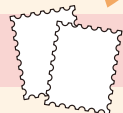
腹部エコー検査	CA19-9 (腫瘍マーカー) 検査	アポリポ蛋白 (APOA2) アイソフォーム検査
手軽に受けられる画像検査で、超音波を利用して肝臓・胆のう・腎臓など腹部臓器の異常を確認します。膵臓は体の奥に位置するため、体型や腸内ガスの影響などで見えにくい場合もありますが、膵臓に小さな異常が見つかることもあります。健診の基本となる検査として有用です。	血液検査で行う膵臓がんの代表的な腫瘍マーカー検査です。進行がんで上昇することが多く、健診段階でのリスク評価の指標として広く用いられています。 	血液中のアポリポ蛋白の変化を測定し、腫瘍マーカーよりも早い段階で膵臓がんのリスクを評価することが期待されている検査です。特異度が高く、要注意者のスクリーニングに有効とされています。

※これらの検査を組み合わせることで、膵臓がんの見逃しを減らし、早期発見につながる可能性を高めることができます。

現在、日本では2人に1人が生涯のうちに何らかのがんを経験するといわれています。しかし、今回のデータが示しているように、健診によって早期発見を習慣づけることで、前立腺がんのように9割以上の生存率が期待できるがんも多く存在します。また、膵臓がんのような難治がんであっても、早期に異常を見つけることで治療の選択肢を広げることができます。なお、労働安全衛生法に基づく法定健診や、特定健診（いわゆるメタボ健診）には、前立腺がん・乳がん・胃がん・大腸がん・膵臓がんなどのがん検診項目は含まれていません。これらのがんをカバーするためには、自治体の住民健診や、当会が実施しているオプション検査を追加することが有効です。**「症状がないから大丈夫」ではなく、「症状がない今こそチェックする」。**それが、がんから命を守るための最も確かな一歩です。



2025年度複十字シール運動へのご協力ありがとうございました



大阪府内の募金総額

19,806,770円

皆さまからお寄せいただいた募金は、主に結核・肺がん・COPD（慢性閉塞性肺疾患）などの病気予防の普及啓発、全国の結核予防団体の事業支援、開発途上国の結核対策支援、結核等の調査研究の活動に役立てられています。
今後とも、複十字シール運動にご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

たくさんのご協力
ありがとうございます！



2026(令和8)年度のシールデザイン
今年度のテーマは
「スポーツと健康」です♪



▲大阪府 西野健康医療部長(右)



▲大阪市 稲田健康局長(右)

結核予防全国大会決議文 陳情<報告>

3月に愛媛県で開催されました、第77回結核予防全国大会で採択された決議文をもって、4月27日大阪市、28日大阪府に陳情を行いました。当法人河面理事長より高齢者や外国出生者における結核の発生状況などを説明し、結核対策・普及啓発への更なる協力を求めました。(4月28日堺市へ訪問)

大阪複十字病院 院長就任のごあいさつ

このたび 2026 年 4 月 1 日付で、山本隆文前院長の後任として病院長に就任いたしました田中敏郎と申します。平素より地域住民の皆さま並びに医療関係の皆さまには、当院の運営に格別のご高配を賜り、心より厚く御礼申し上げます。

私は大阪大学医学部卒業後、免疫内科を専門として研鑽を重ね、米国国立衛生研究所での研究を経て、大阪大学附属病院等において診療・研究に従事してまいりました。近年は臨床に加え、大阪はびきの医療センターや近畿中央病院では副院長として病院運営にも携わってまいりました。

当院は長きにわたり呼吸器疾患および免疫疾患を中心に地域医療を支えてまいりました。その歴史と伝統の重みを深く受け止め、今後も高度で良質な医療の提供と地域に根ざした医療の実践に尽力してまいります。職員一同、より一層信頼される病院を目指して精進する所存でございますので、何卒一層のご支援、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。



院長 田中敏郎

表紙：築港赤レンガ倉庫

大阪港のウォーターフロントに佇む築港赤レンガ倉庫は、大正時代に建設された、大阪に残る数少ない歴史的レンガ建造物です。現在はクラシックカーを展示する博物館として生まれ変わり、大人の隠れ家のような空間が多くの愛好家に親しまれています。



健診予約はこちらをご利用ください。
大阪総合健診センター 直通電話番号

06-6202-6667



◀ 健診の案内など詳しくはWEBより

一般財団法人 大阪府結核予防会

事務局・ 大阪総合健診センター 相談診療所	大阪複十字病院	堺複十字診療所
〒541-0045 大阪市中央区道修町4-6-5 TEL : 06-6202-6666(代表) FAX : 06-6202-6686 URL : https://www.jata-osaka.or.jp E-mail : info@jata-osaka.or.jp	〒572-0850 寝屋川市打上高塚町3-10 TEL : 072-821-4781(代表) FAX : 072-824-2312 URL : https://www.osaka-hospital.org E-mail : webmaster@osaka-hospital.jp	〒590-0028 堺市堺区三国ヶ丘御幸通59番地 南海堺東ビル8階 南海堺東駅クリニックセンター内 TEL : 072-221-5515(代表) FAX : 072-223-8534 URL : https://www.jata-sakai.jp/ E-mail : sakai@jata-osaka.or.jp

みなさまの健康を守ることで社会に奉仕するよう努めます